

「葦」第36号発刊によせて

教育委員長 和田 容子

平成16年度は、渡邊看護部長の就任・C棟の完成を迎えた節目の年でもありました。

そのような状況の中、看護部教育委員会は「学びを生かして実践に役立てる」を目標に、患者さんに満足していただける看護サービスの提供に向け、年間教育計画を企画しました。

まず、5月には渡邊看護部長の就任の挨拶と看護部の方針を伺い、気持ちを新たに新年度のスタートを切りました。

6月から10月までは、「各所属で看護診断能力を高めるための人材の育成」を目的に、月2回（計8回）スタッフの指導のもと、看護診断学習会を開催し、全行程を受講した参加者には初めての試みとして、修了書を交付しました。

11月には昨年に引き続き藤崎先生を迎え、看護診断の学習会を2日間にわたり開催し、看護診断の知識を深めました。

12月は主任会の協力のもと看護研究発表会が行われ、22の所属から患者サービスの向上への取り組みの工夫など、1年間の成果が発表され、スタッフの自己研鑽の場となりました。

又、コミュニケーション技法の研修では、「患者とのコミュニケーション技法の実践を学び、より効果的な患者との関係を構築する」ことを目的に、ロールプレイングを用いて実践に即した学習を行いました。

研修後、参加したスタッフからは、「患者のそばに留まる勇気が持てるようになり、参加してよかった」という声が聞かれました。

2月には、看護部長から看護部の理念・平成17年度の目標を伺い、次年度に向けて看護部全体が同じ目標に向かって活動できるよう、各所属の目標へと繋げました。

今年度は、看護診断・コミュニケーション研修を通して継続学習の必要性、またスタッフの自主的参加による学習成果を実感した年となりました。

この教育研修が更なる患者サービスの向上と、スタッフの学習意欲に繋がることを願っています。

1年間教育委員会活動にご協力いただいた皆様、又この葦を発行するにあたりご協力いただいた皆様に感謝いたします。